

# キタキツネ

*Vulpes vulpes shrencki*

イヌ科

## 名前の由来

キタキツネは北に生息するキツネであることからと思われる。古くキツネは「キツ、キツ」「クツ、クツ」と鳴くとあり、この鳴き声に由来するという説、「キ」は臭いを指し、「ネ」はイヌの転化で「臭いイヌ」という意味だという説などがある。漢字名：北狐



キタキツネ

## 形態的特徴

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）60cm～80cm、尾長37～44cm程度。体重2.5～10kg。毛色は赤褐色で、あごから腹部にかけては白色。足の前面は黒色。尾は背面と同じ赤褐色で先に白毛がある（白毛がないものも）。

口先が細くとがり、頭胴長の割に尾が長いことなどが他のイヌ科動物との違い。

類似種：なし。



右前足

右後足



キタキツネの足跡



キタキツネ

## 生息環境・分布

森林、草地、農耕地、都市近郊など様々な所に生息する。

**分布：**キタキツネはアカギツネの亜種<sup>※</sup>。国外では、キタキツネはサハリンに、アカギツネは北半球のほぼ全域に広く分布。国内では、北海道、国後、択捉に分布。（本州、四国、九州に生息するホンDIGツネもアカギツネの亜種）

北海道内では、全域に分布。

十勝地方では、低地から高山まで広く分布し、市街地に現れることもある。

※ 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

## 食性・他生物との関わり

雑食性。主にノネズミ類（アカネズミやヤチネズミなど）などの小哺乳類や、動物の死体、鳥類、爬虫類、昆虫類などの動物質の他、残飯、果実、農作物、残飯なども食べる。（→興味深い話の項参照）

幼獣のうちタカ・フクロウ類などに捕食されることもある。



餌を運ぶキタキツネ

## 生活サイクル

|        | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 出現期    | ■  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
| 交尾期    | ■  |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
| 出産・育児期 |    |    |    | ■  |    |    |    |    |    |     |     |     |

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ

## 繁殖生態・寿命

交尾期は1月下旬～2月中旬。繁殖期には巣穴を用いる。  
(→興味深い話の項参照)

出産は3～4月で、一度に3～6子を産む。子供は9～10月に親離れをし、分散を開始する。



タンポポの咲く築堤で遊ぶキタキツネの子ども

生後約10ヶ月で性成熟する(ホンDIGツネの場合)。寿命は野生ではふつう6～7年(13年の記録もある)。



巣穴から顔をのぞかせるキタキツネの子ども

## 興味深い話

■キタキツネはアカギツネの亜種。アカギツネは北半球のほぼ全域に広く分布。尚、本州・四国・九州に生息するホンDIGツネもアカギツネの亜種。

■雪原で前肢をたたみ、後肢をピンと伸ばしてジャンプしていることがある。こうした時には主に野ネズミを狙っているのだという。野ネズミには真上から攻撃されると身をすくませる習性があるためだという。

■オスの陰茎には骨があり、それによって交尾の際メスから簡単に外れないようになっているのだという。

■親キツネはしばしば巣を引っ越し、移動の際は子の首筋を口でくわえて運ぶのだという。

■エキノコックスがキツネの腸に寄生して卵を産み、糞と共に排泄される。それらの卵が付着した植物をネズミが食べ、ネズミの体内で幼虫になり肝臓に寄生する。エキノコックスの幼虫が寄生したネズミをキツネが食べると、キツネの腸の中で成虫になるというサイクルで循環している。人がエキノコックスに感染するのは口から虫卵が入った場合だけで、キツネの糞に直接接触したり、糞に汚染された植物や水などをそのまま口にすると幼虫が寄生する事があるので、注意が必要。

■個体数が増加し、町中などでもよく見られた。但し、近年疥癬(かいせん:イヌ科の皮膚病の一種)が流行し、や

や減少傾向にあるらしい。キツネの増加にともなって、ユキウサギの数が減少していたが、キツネが減ってくればウサギが増えてくるかもしれない。ただし、ウサギの減少はキツネのせいだと必ずしも決まった訳ではないともいう。

■雑食性であり死肉も食べるため、スカベンジャー(自然界の掃除屋)とも呼ばれる。

■十勝地方のアイヌ語では「チロンノフ=私たちがたくさん殺すもの」「ケマコシネカムイ=脚の軽い神様」などと呼ばれる。

■本別のアイヌ伝承では、キツネが何かくわえているのを見たら、キツネを捕まえてそのくわえているものを取らないと見た人の魂を取るといわれていた。

■音更のアイヌ伝承では、キツネは昔、白色や黒色だったが、カワウツをだましたため、その仕返しとして体にサケの筋子を塗りつけられ、そのため赤茶けた色になったという。



キタキツネ

## 配慮事項

観光地などで、観光客から餌を貰う事を覚えたキツネが見られるが、最終的には人や車に慣れてしまって車に轢かれるなどの結果となったり、冬が越せなかったりする事とな

る。野生動物は、自分で餌を探して生きているのが自然なのであるから、キツネをはじめとして、野生の動物には餌を与えない方がよいのかも知れない。

### 参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994  
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997  
「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996

「動物名の由来」中村浩 東京書籍 1981  
「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘 日経サイエンス社 1993  
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ